

令和3年7月28日

令和2年度 特別の教育課程の実施状況等について

|             |           |       |
|-------------|-----------|-------|
| 栃木県         |           |       |
| 学 校 名       | 管理機関名     | 設置者の別 |
| 宇都宮市立清原北小学校 | 宇都宮市教育委員会 | 公立    |

1. 特別の教育課程の概要

令和元年度まで実践的なコミュニケーション力の育成を目指して、会話科「英会話の時間」と「ことばの時間」を設定し、実践してきた。

外国語活動、外国語科は、市の標準授業時数を上回る授業時数を確保し、常駐する外国人の小規模特認校英語指導業務担当者（AET）が、毎時間英語によるやり取りを中心とした授業を行っている。また、宇都宮大学との交流や総合的な学習の時間との教科横断的な学習などと関連付けて取り組み、コミュニケーション能力を高める工夫をした。

会話科「ことばの時間」では、児童が様々な人々と協力し共に生きるために必要なコミュニケーションを図ろうとする態度や、考えたことや伝えたいことを目的や状況に応じて話したり伝えたりする能力を育成した。日本語による表現力の向上を目指し、アナウンサーやミュージカルなどの専門技術を持つ外部講師の方々の授業を設定し、夢育劇場や朗読発表会で発表したり、毎日の校内放送や集会でのスピーチを行ったりして学習の成果を発揮した。

2. 特別の教育課程に基づく教育の実施状況に係る評価

| 項目      | 評価項目   | 主な具体的な取組   | 評 価  |
|---------|--|--|--|
| 目指す児童の姿 | A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションをしている。<br>【数値目標】<br>全体アンケート<br>「児童は、英語を使ってコミュニケーションをしている。」における肯定的回答<br>⇒児童 85%以上<br>⇒教職員 85%以上 | ① 児童の興味関心や発達段階に応じて、英語での放送を朝や清掃時に行う。<br>② 引き続き、AETや担任が日常の中で積極的に英語で話したり、やり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。 | 【達成状況】<br>児童の肯定的回答 91.9%<br>教職員の肯定的回答 100.0%<br><br>【次年度の方針】<br>① 朝の放送を中心に、児童が英語を聞いたり話したりする機会を設ける。<br>② AETや担任が授業だけでなく、朝の会・給食の献立・簡単な指示など、日常生活の中で積極的にやり取りを見せたりして英語表現に慣れ親しませる。 |
|         | B2 児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。  | ① 児童の主体的な活動を重視して、展開したり、自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行                                   | 【達成状況】<br>児童の肯定的回答 91.9%<br>教職員の肯定的回答 100%<br><br>【次年度の方針】   |

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>【数値指標】<br/>全体アンケート<br/>「児童は、積極的に自分の考えを表現したり、相手の話を聞いたりしている。」における肯定的回答<br/>⇒児童 80%以上<br/>⇒教職員 80%以上</p> | <p>ったりする。<br/>② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や会話科において聞くことを重視した授業の展開を工夫する。</p> | <p>① 児童の主体的な活動を重視した授業展開を工夫したり、自分の考えを表現する場を計画的に位置づけ、相手を意識した表現方法の指導を行ったりする。<br/>② 表現力やコミュニケーション力の育成を図るため、各教科や会話科において聞き方を重視した授業の展開を工夫する。</p> |
|--|--|---|

### <学校関係者による評価>

- ・ 土曜授業において、外国語活動の授業を参観していただいたところ、英語によるやり取りや授業への参加の様子に感心されていた。
- ・ 会話科「ことばの時間」の集大成となる「夢育劇場」（ミュージカル・劇）や百人一首、朗読発表会については、コロナ禍の中で創意工夫して行っている様子を聞き、継続指導して表現力を高めていることが有難いと感謝の言葉をいただいた。

### 3. 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

保護者には、学級懇談会等を活用し特別の教育課程に関する取組を説明したり、会話科通信「HEART to HEART」や学年だより、学校だより「夢育通信」、ホームページで活動の様子を紹介したりした。地域住民やその他の関係者に対しても、学校だよりを配布、ホームページで紹介してきた。

さらに、実際に児童とともに授業に参加し会話科の学習に親しんでいただけるよう「きよきたふれあい楽習」を設定し、保護者だけでなく地域住民へ回覧板で周知し参加者を募り、実施した。全市一斉の土曜授業日には百人一首を保護者も楽しむことができた。令和2年度は、地域との連携行事「きよきた船頭まつり」が実施できなかったため、「学習発表会」を行い、「ことばの時間」で学んだ群読などを発表したり、「夢育劇場」と題して創作ミュージカル「鬼怒川のいのち」や創作劇「船頭物語」を撮影しDVDを作成して鑑賞する機会を設けたりして、教育活動への理解を深めた。

### 4. 実施の効果及び課題

毎年12月に宇都宮市の全小中学校が実施している「学習と生活についてのアンケート」の結果では、3年生以上の学年で、「英語は将来のために大切だと思っている」の肯定的回答の平均は約90%であった。これは、授業だけでなく毎日の生活の中で、自然に英語を耳にするように、朝の校内放送や給食の献立発表、健康観察でのやり取りなどを日本語と英語の両方で行うなど、日常生活の中で英語に触れる機会を増やしてきたことによるものと考えられる。AETが発音等の個別指導をしたり各担任が工夫して英語を日常的に使ったりすることにより、自然に英語が口ずさめるようになってきている。ただし、「外国語活動・英語が好き」の回答には個人差があり、苦手意識をもっている児童も見られる。

日本語によるコミュニケーションに関わる部分については、「私は、自分の考えを発表した友

達と話し合ったりすることが好きです」と回答した児童が91.9%も見られ、おおむね満足な結果が得られた。

## 5. 課題の改善のための取組の方向性

外国語活動に苦手意識をもっている児童も見られることから、児童が自信をもって答えたり聞いたりできるように歌や絵本、映像、タブレットを活用した様々な活動を行う中で、自然に多くの英語に慣れ親しませたい。また、英語で会話することに抵抗を感じている児童には、ゲームや絵本を介した英語でのやり取りを聞いて楽しむ活動を増やし、英語でのやり取りの楽しさを感じられるようにしていきたい。他教科と比較して、外国語科は、「できない、自信がない」と不安を感じている児童が多いように思えるので、担任とAETが上手に役割を分担し、英語を使ってコミュニケーションを図ることができたという実感がもてるよう、個に応じた効果的な指導を引き続き行っていく。

日本語によるコミュニケーション力の育成にあたっては、話し合い活動を充実させ、全ての児童に司会者等の役割を経験させたり、小集団活動の中で友達とのやり取りをしたりする機会を設定する。今後も、聞く力・話す力の育成を図り、話し手の意図を考えながら聞く力や、話の展開に沿って自分の考えを述べる力を身に付けさせていきたい。